

## 平成20年6月の解説（府県天気予報）

### 【6月の天候状況】

上旬は日本の南に停滞した梅雨前線上の低気圧や台風第5号の影響で、東・西日本の太平洋側と南西諸島では雨の日が多くなりました。中旬は高気圧が本州付近を通過し、東北地方から東日本を中心に晴れる日が多くなりましたが、九州地方では梅雨前線の影響で大雨となりました。下旬は梅雨前線の影響で東・西日本では曇りや雨の日が多くなりました。また西日本の一部と東日本・北日本の太平洋側の一部では大雨となりました。

月を通しての日照時間は、西日本では平年よりかなり少なくなりましたが、そのほかの地方は平年となりました。降水量は東日本の日本海側と北日本では平年より少なく、東日本の太平洋側と西日本の日本海側では平年より多くなりました。気温は南西諸島では平年より高くなりましたが、そのほかの地方は平年並みでした。

### 【6月の検証結果】

17時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報で80%と例年<sup>(注)</sup>より1ポイント低く、明後日予報で77%と例年より2ポイント高くなりました。地域毎の適中率では、明日予報は東海、近畿、九州北部、沖縄地方では5から7ポイント低くなりました。明後日予報は関東甲信、北陸地方で例年よりそれぞれ7と6ポイント高くなりましたが、沖縄では5ポイント低くなりました。明日の最高気温の予報誤差は、例年と比べて東北、関東甲信、北陸地方では0.5小さくなり、全国平均でも例年より0.2小さい1.8でした。また、最低気温の予報誤差は、全国的に例年とほとんど同じで、全国平均では例年より0.1小さい1.2でした。

<sup>(注)</sup>例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【6月の天気予報から】

6月8日は、低気圧が本州の南海上を北東に進み、関東地方では南部沿岸部の一部で雨が降りました。（図1）

6月8日の朝に発表した東京地方の今日8日の天気予報は「曇朝一時雨」で、降水確率を06-12時が50%と発表しました。これは、低気圧が8日昼頃に三宅島付近を通過すると予想し、朝を中心に、まとまった雨雲が一時的に東京付近まで北上すると考えたからです。

東京（大手町）では8日の未明から朝にかけて断続的に弱い雨を観測しましたが、雨雲は予想ほど北上せず、東京地方全域でも1日中、1時間に1ミリ以上の雨は降りませんでした。

今回の場合、低気圧が予想より100kmほど南を通過したため、雨雲の広がりも東京湾までで、1

ミリ以上の雨を観測したのは三浦半島から房総半島より南となりました(図2)。このように雨雲の北縁が東京地方を覆うかどうか微妙な時は、コンピュータの予想だけでなく最新の観測データを使い慎重に予報をしています。今回は予報に雨を表現すべきか否か、判断が非常に難しい事例でした。

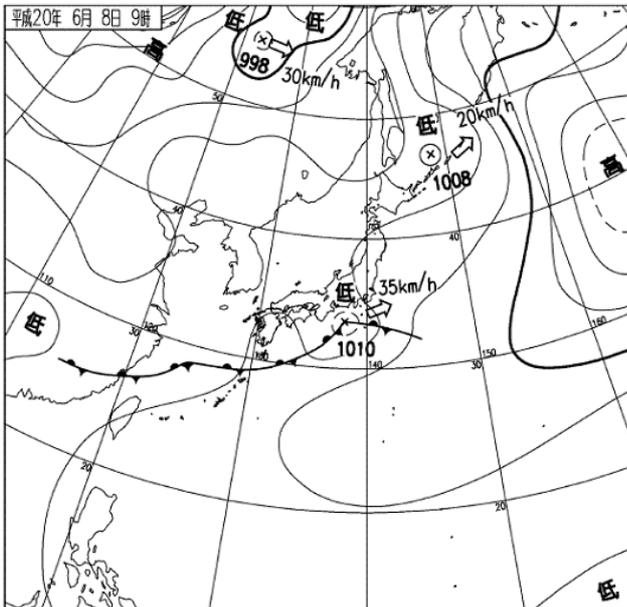


図1 平成20年6月8日9時の地上天気図

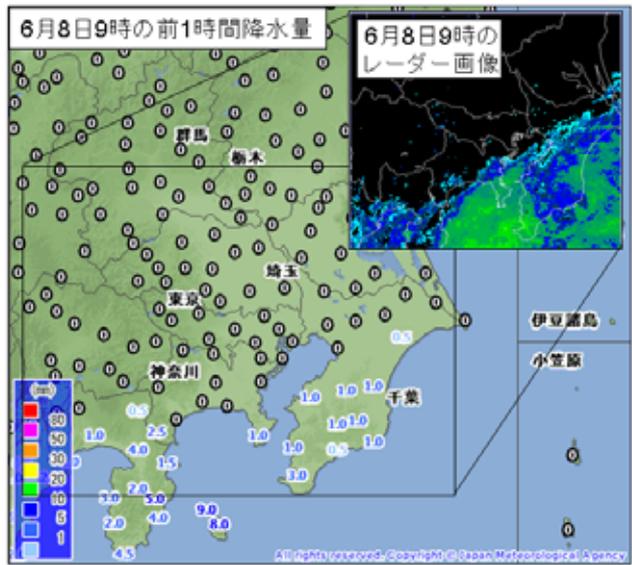


図2 平成20年6月8日9時のアメダス1時間降水量とレーダーエコー

【8月の天気予報の利用にあたって】

8月は一年のうちで最も気温が高い月ですが、年によっては曇りや雨の天気が多く、気温が低めに経過するときもあります。そのようなときでも、太平洋高気圧に覆われて晴れる日が続くと気温が上昇して、日最高気温が30を超えて時には35を上回るようなこともあります。

2003年の8月は低気圧や前線の影響を受けることが多く、月を通しての平均気温は全国的に低くなりましたが、上旬前半の数日間は太平洋高気圧に覆われて、西日本と東日本では晴れの日が数日続いたために気温が上がって猛暑となり、各地で熱中症の被害が相次ぎました。

仕事や行事、レジャーなど、特に屋外で活動する予定がある場合には、天気とともに予想気温も確認して暑さへの万全の対策をしましょう。

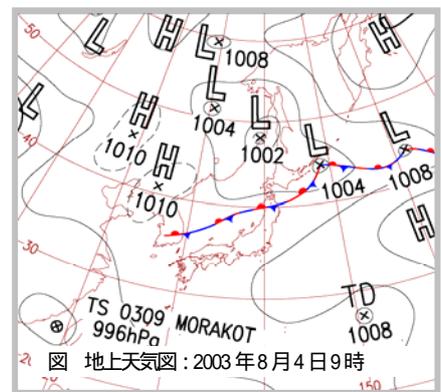


表 2003年8月の日中の天気と日最高気温( )

	札幌	仙台	東京	大阪	福岡	那覇
1日	☁	☁	☁	☀	☀	☁
2日	☁	☁	☁	☀	☀	☀
3日	☁	☁	☁	☀	☀	☀
4日	☀	☁	☀	☀	☀	☀
5日	☀	☁	☀	☀	☀	☀
6日	☀	☁	☁	☀	☀	☁
	25.2	24.3	28.4	33.2	30.1	33.8
	22.6	26.6	31.4	33.3	33.6	34.4
	20.7	29.4	32.0	33.7	33.4	35.5
	28.3	29.7	33.4	34.4	32.9	34.0
	26.1	28.6	33.3	35.4	32.5	33.9
	29.1	25.2	31.0	34.8	33.9	33.6